

屋外貯蔵タンクの予防保全に関する調査検討会（第1回）

【議事要旨】

1 開催日時

令和8年7月16日（木）10時00分から12時00分

2 開催場所

総務省消防庁 地下1階 2号館共用会議室（対面方式及びWeb方式による並行開催）

3 出席者（敬称略）

座長 辻 裕一

委員 岡崎 慎司、熊崎 美枝子、徳武 皓也、根本 雄、野村 誠一郎、山田 實

4 配布資料

資料1－1 検討会委員名簿

資料1－2 開催要綱（案）

資料1－3 平成6年消防危第74号（コーティング指針）の見直しについて

参考資料1－1 関係条文（抜粋）

参考資料1－2 平成6年9月1日消防危第74号 コーティング指針

参考資料1－3 仕様書（実態調査）

参考資料1－4 仕様書（規格調査）

5 議事

（1）開催要綱が委員により承認された。

（2）委員の互選により、辻委員が座長に選出された。

（3）辻座長が山田委員を座長代理に指名した。

（4）議事1 検討の背景と方針等

資料1－3により事務局から説明が行われた。質疑の概要は以下のとおり。

【委員】

今後の方針として仕様規定化を視野に入れているか。

【事務局】

仕様規定化について検討対象として考えている。性能規定的な考え方についても、必要な評価方法等の調査を行いながら検討していきたい。

【委員】

実態調査においては、できるだけ多くのデータを収集することが重要である。

また、長期間使用されているコーティングについては、補修・補強履歴も含めて把握し、詳細な分析を行うことが有益ではないか。

【事務局】

まずは幅広く実態を把握し、その上で長期間使用されている事例について詳細調査を実施したいと考えている。

【委員】

実態調査の対象については、特定屋外貯蔵タンクに限定するのか、それとも小規模タンクも含めて調査を実施するのか。

【事務局】

現時点では特定屋外貯蔵タンクを主な対象として想定しているが、事業者等の協力が得られる場合には、小規模タンクについても調査対象に含めることを検討したい。

【委員】

現行指針の膨れ面積による評価基準については、実際の劣化状況や残存性能との関係を踏まえ、評価方法を見直す必要があるのではないか。

【事務局】

今後収集するデータや実態調査結果を踏まえながら検討したい。

【オブザーバー】

新しい塗料や材料の開発が進んでいることから、実績だけでなく浸漬試験等の性能評価により導入可能とする制度についても検討してはどうか。

【事務局】

海外事例や既存規格等も調査しながら検討していきたい。

【委員】

現行の仕様規定に加え、性能規定的な考え方を取り入れることで、新たな危険物や新技術にも柔軟に対応できる仕組みが望ましい。

また、制度化に当たっては評価手法や運用面についても整理が必要ではないか。

【事務局】

今後の実態調査や関係団体へのヒアリング結果を踏まえ検討したい。

【オブザーバー】

研削材について、指針に書かれているもの以外も使用実態等を調査してはどうか。

【事務局】

関係団体へのヒアリングを踏まえ検討していきたい。

【委員】

コーティングの耐用年数については、一律の使用年数による管理だけでなく、個々のタンクの維持管理データや性能評価結果を踏まえて判断できる仕組みも検討してはどうか。

【事務局】

コーティングの定量的評価方法等も含め、今後の検討課題として整理したい。

【委員】

コーティングの種類によって劣化形態が異なることから、寿命の定義や評価指標についても検討が必要ではないか。

【事務局】

実態調査や技術情報の収集結果を踏まえ検討したい。

(5) 議事2 今後のスケジュール (案)

事務局から、国内実態調査、国内外規格調査及び関係団体ヒアリングを実施し、第2回検討会において中間報告を行う予定である旨説明が行われた。質疑の概要は以下のとおり。

【委員】

海外調査については、欧米だけでなく、日本と気候条件が類似するアジア地域の事例についても調査対象とすることが望ましい。

【事務局】

調査の実施に当たり参考としたい。

6 今後の予定

国内実態調査、海外規格調査及び関係団体ヒアリングを実施する。

第2回検討会において調査結果の中間報告を行う。

調査の進捗に応じて、必要な事項について委員へ随時意見照会を行う予定である。

以上